



飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. 48

The Iida City Institute
of Historical Research

飯田市歴史研究所

〒395-0002

長野県飯田市上郷飯沼3145

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iih@city.iida.nagano.jp



第8回

飯田市地域史研究集会

城下町飯田の性格・シャルルヴィルとの国際的比較を考える

今年度第8回を迎える地域史研究集会が、8月21日(土)・22日(日)の2日間にわたり開催されました。本年度は「城下町飯田」をテーマに、飯田城下町の性格や同時期に成立した都市シャルルヴィルとの国際的比較について考える集会となりました。中世から近世へ移行する時期に新しく建設された各地の城下町の中でも、近代に至るまで独自の発展をたどった飯田は、個性的な伝統を持っています。今回の集会では、城下町飯田がはぐくんできた個性の一端を明らかにしたと同時に、友好都市であるシャルルヴィルの歴史的な性格について研究交流ができたことは、大変意義深いことであったと思います。

8月21日(土) シンポジウム

伝統都市を比較する - 飯田とシャルルヴィル -

1日目は、「都市史研究センターとらっど3」主催の「円座 伝統都市の比較史」に参加のため飯田に滞在されていたフランソワ＝ジョゼフ・ルッジウさん(パリ第4大学教授)と、研究部長の吉田伸之が、16世紀末から17世紀初頭にかけて建設され、城塞施設を中心に発展した二つの都市、飯田とシャルルヴィルの成立過程とその特徴について講演しました。吉田部長は「城下町飯田の性格を考える」と題し、飯田が当初から藩の領域を超えた伊那郡全体の中核都市として機能した点を明らかにし、ルッジウさんはシャルルヴィルがフランス国王とは直接的な君臣関係にない諸侯によりつくられた異色の都市であることをテーマにした「君侯の都市」を講演されました。これらの報告を受けて、伊坪達郎さん(上郷小学校校長)とギヨーム・カレさん(フランス社会科学高等研究院准教授)より各報告の評価や意見についてコメントがなされました。



8月19日・20日

都市史研究センターとらっど3主催の円座



21日 シンポジウムコメント

ミニコンサート・アートパフォーマンス

1日目の休憩時に行われたミニコンサートでは、下條歌舞伎保存会の小池恒久さんと小池美津貴さんによる義太夫節が披露され、終日会場内に展示されたアートパフォーマンスでは、組子工芸師の塩澤正信さんによる組子細工の作品が紹介されました。



21日 ミニコンサート義太夫節

8月22日(日) 小特集

飯田・上飯田 - 近世から現代へ -

2日目午前中は、旧飯田町・上飯田町が近世から近代にかけてどのような相互関係のもとに歴史的に経緯したかを考える、二つの個別報告を行いました。多和田雅保調査研究員は、「上飯田村の『町貫』について」というタイトルで報告し、近世の上飯田村と飯田町との関係を、上飯田村にかけられた町の共益費と言われる「町貫」から分析しました。田中雅孝調査研究員は、戦前の飯田町における商工業の特徴を、農村部との経済的関係や町の空間構造から位置づける「戦前期飯田町の商工自営業者層の構成」を報告しました。

研究報告会

2日目小特集の後、飯田・下伊那地域に関するさまざまな時代・分野の地域史に関する報告が行われました。飯田高等学校図書委員会からは、生徒の目線から見た飯田高校110年の歴史、市立図書館の宮下裕司司書は、山村書院と山村正夫の軌跡から見た出版文化の源流、市民研究員の原英章さんからは、戦前平岡ダム工事にかかわった朝鮮人強制連行の実態、また、東京大学大学院の小島庸平さんからは、1930年代の恐慌期における座光寺村の在来金融と負債整理についてと、多岐にわたる報告が行われました。



22日 飯田高等学校図書委員会の研究報告

サボロウ=募集

くるみざわ もり 『胡桃澤盛日記』刊行事業を 支援して下さる方を募集します

胡桃澤盛（1905～1946）は、旧河野村（現豊丘村）が戦争中に満州へ分村移民をしたときの村長です。河野村開拓団の人々は敗戦後に集団自決の悲劇に陥り、胡桃澤盛は昭和21年に自ら命を絶しました。

歴史研究所では胡桃澤盛の残した日記を近現代史ゼミのメンバーで解読してきました。その結果、大正12年から昭和21年までの膨大な日記が持つ豊かな世界の存在が発見されたのです。

このたび有志による「胡桃澤盛日記」刊行会が発足し、歴史研究所が監修するかたちで日記の刊行が決まりました。来年度からの刊行を目指しています。

日記の詳細については『飯田市歴史研究所年報』8号を御参照ください。

募集案内については、後日お知らせいたします。



新刊紹介

『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集8』 を刊行しました

満蒙開拓を語りつぐ会は、地域に残る満州移民の記憶を聞き取り、満州移民送出の実態を明らかにし、体験者の思いと記憶を報告集にまとめ伝えています。

第8集には、吉林省水曲柳開拓団員4人、三江省大古洞下伊那郷開拓団員4人、他2人の計10人の方々の語りを掲載しています。

満蒙開拓を語りつぐ会 編
飯田市歴史研究所 発行

2010年

264頁/B5判/定価800円

問い合わせ
飯田市歴史研究所
電話 0265-53-4670



オリエンテーションに参加して

宮島 長太郎（飯田高校3年生）

今年の歴史学オリエンテーションで、3年続けて参加したことになりました。元々歴史に興味がありましたが、1年生の時に担任の先生がオリエンテーションがあることを教えて下さり初参加しました。



それ以来、毎年参加し、大学の先生のミニ講義や研究所の紹介など、普段経験できないことがたくさんありました。また、最近では古代が面白いと思っていましたが、今年のミニ講義を聞いて、「古代史と違い身近にあるいくつもの古文書から歴史が読み解けるところが、やはり近世も面白いなあ。」と改めて思いました。

これから進学となりますが、大学では歴史を勉強したいと思っています。

歴史への興味がさらに深まって、3年間の歴史学オリエンテーションに参加して、本当に良かったです。

地域史講座

飯田・上飯田の歴史

11月6日(土) 午後2時～4時

「飯田・上飯田の寺社の役割」

飯田藩領の寺社のうち、その半数近くは城下町と上飯田村に集中していました。これらの寺社の役割を、さまざまな位相から考えていきます。

- ・講師 竹ノ内雅人（研究員）
- ・場所 歴史研究所2階研修室

定例研究会

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

(1) 10月29日(金) 午後4時～5時30分
飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる

講師：林 武史さん（市民研究員）

(2) 11月27日(土) 午後2時～4時

松尾村「満洲開拓地調査報告書」を読む

講師：本島和人（調査研究員）
齊藤俊江（客員研究員）

場所：歴史研究所2階研修室

龍共印刷株式会社 ryukyo

〒395-0004 長野県飯田市上郷黒田121
TEL 0265-22-5353 FAX 0265-52-1971

カラー美術印刷 チラシ・パンフレット
新聞・文集・出版 コンピュータ用伝票



8月21日 第8回飯田市地域史研究集会
飯田歴研賞授賞式(飯田信用金庫本店大会議室)

2010年度 飯田歴研賞受賞作品

飯田歴研賞は、飯田・下伊那の地域史研究における優れた論文や著書等を表彰するものです。今年度の受賞作品を紹介します。受賞された方々には、「第8回飯田市地域史研究集会」(8月21日・22日開催)の授賞式にて、表彰状が贈られました。

著書部門	<p>氏乗史編集委員会『氏乗史』2010.3</p> <p>本書は、天竜川左岸、小川川上流の現・喬木村氏乗(旧小川村氏乗)を巡る単位地域史である。地名の由来や地質などから始まり、木地師や石神仏、林野と竜東索道など、地域の特性が多面的に叙述され、また矢筈砂防ダムや三遠南信道のトンネルなどにより、最近の変貌の様子がたどられる。古文書の翻刻、豊富な図柄、古写真などを用い、読みごたえのある内容となっている。そして、近世後期以来の小川村からの分村問題や、地域の核であった氏乗学校の足跡が記されるなど優れた成果となっている。</p>
	<p>吉田 知峻「19世紀清内路村における建設行為の構造」 『清内路 歴史と文化1』東京大学大学院人文社会系研究科・文学部日本史学研究室、2010.3に所収</p> <p>本研究は、清内路村における建設活動を村落構造との関連から解き明かした力編である。清内路村に残された文化・文政期における村の舞台や幕末期の諏訪神社の普請記録の丁寧な分析を通して、当該建設活動における中老の役割の重要性、膨大な森林資源を背景にした清内路特有の建設行為、commonsとしての共有施設と村落の関係などが明らかになった。村落共同体と建築を巡る魅力的かつ普遍的なテーマが本研究を通して浮上したと評価できる。</p>
奨励賞	<p>高橋 勉『高橋勉自伝 教えられ 支えられ』南信州新聞社、2010.2</p> <p>本書は、飯田市下久堅南原に生まれた高橋勉氏の自伝であり、少年期における村の生活(昭和戦前期)、軍隊生活(戦時期)、青年運動(戦後改革期)、農協運動(戦後改革期～現在)、社会福祉施設の運営(現在)について書かれている。本書の特色は、多くの人物の歴史が刻まれていることにある。例えば、高橋氏の中学進学に当たって、学資を全面的に援助した有力者の姿、凍霜害防止のため、懸命に村を巡回する農業技術員・農協職員の姿などである。こうした叙述は、高橋氏が他者との「協同」を重視しているからこそ生まれたものである。本書は、高橋氏という地域リーダーの思想と行動や、昭和戦前期から現在に至る農村の姿を知りうる貴重な記録となっている。</p>
	<p>豊丘史学会『豊丘風土記』第二十輯・記念号、2009.8</p> <p>本作品は、豊丘村の住民が史学会を組織して、地域の歴史と記憶をたどり続けて、20号にも及ぶ息の長い雑誌を刊行してきた活動の成果である。幕末平田国学の影響を受けた尊皇攘夷派の女性歌人松尾多勢子の調査のために、豊丘村を訪ねてきたアメリカ女性史研究者の話や、多勢子を含めて平田国学の影響を受けた多数の郷土の歌人の詳細な位置図など興味深い。また、国土防衛隊という本土決戦の話や河野村開拓団の生き証人である久保田諫氏の逃避行その後など、戦争の思い出も多く載せられている。また、雹害などの天災の記録も貴重で、これまでも本雑誌では天明の飢饉、昭和恐慌、三六災害など、天変地異は住民に忘れてはならない記憶として語り継がれている。それぞれの文章には村民の地域に対する愛情があふれており、この雑誌のタイトルとして「豊丘風土記」と銘打った意味がよく分かる。地域の固有の歴史と文化を語り伝える活動として大変貴重なものである。</p>

飯田アカデミア2010

第60講座

キム チョソル

講師 **金 早雪さん** (信州大学経済学部教授)



10月30日(土) 13:30~17:00 「近代化」挫折への自省的視座

李氏朝鮮は、開港(1876年、日朝修好条規)後、世界資本主義の外圧のもとで、「近代化」への二つの課題に直面した。一つは新しい独立した国民国家への再編、もう一つはその基礎となる資本主義的産業育成と生産力増強である。しかし下級貴族、次いで東学農民らによる改革の試みは、内外情勢に阻まれ、1905年、日本の半植民地に転落した。植民地時代を通じて、朝鮮は日本経済の一環に深く組み込まれ、農民の「下方転落」など社会構造は激変した。こうした「近代化」の挫折を自省的に捉え直す研究や「過去清算事業」にも触れて、日韓の枠にとどまらない、未来志向の相互理解と国際平和のための歴史考察の視点を問いかけたい。

10月31日(日) 10:00~14:30 分断時代の<民権国家>

1948年、東西冷戦下で38度線以南が大韓民国として独立した。朝鮮戦争(1950-53年)による物心両面の惨禍と対米依存・腐敗政治からの脱却を求めて、韓国国民は自立経済の育成を目指した。1960-70年代、軍事独裁政治のもとで著しい経済成長を遂げ、1987年、学生・市民の力で民主化の第一歩が始まった。32年ぶりの文民・金泳三大統領(1993-98年)、3度の死線を越えた金大中大統領(1998-2003年)、人権派弁護士・盧武鉉大統領(2003-08年)の時代を通じて、韓国は、国民の政治参加システムと国民の生存権保障システムの構築など、<民権国家>への脱皮を見事に果たした。苦学生から財閥CEOを経た李明博大統領のもとで、今、韓国国民は分断時代をどう生きているのか、国際平和と人間福祉のモデル社会への課題を検証したい。

会場 りんご庁舎3階会議室
定員 30人
受講料 1講座 500円(資料代)
申込み

電話、ファクシミリまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申込みください。
ながの電子申請サービス
(<http://shinsei-nagano.lg.jp>)
でもお申込みできます。

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時～8時40分 (各ゼミ共通)

■場所 歴史研究所2階研修室 (各ゼミ共通)

思想史ゼミ	近世史ゼミ	近現代史ゼミ	建築史ゼミ
■開催日 10月6日・20日 11月17日 (第1・第3水曜日) ※11月第1水曜日は祝日のため休講です。	■開催日 10月5日・19日 11月2日・16日 (第1・第3火曜日)	■開催日 10月14日・28日 11月11日・25日 (第2・第4木曜日)	■開催日 10月12日 11月9日 (第2火曜日)
■担当 池田勇太 (研究員)	■担当 竹ノ内雅人 (研究員)	■担当 田中雅孝 (調査研究員)	■担当 金澤雄記 (研究員)

歴研日誌

8月

- 1日 『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集8』 発行
- 3日 歴研ニュース47号発行
- 3日 近世史ゼミ「飯田萬年記3『城下市運上』」
- 4日 思想史ゼミ「丸山真男『超国家主義の論理と心理』」
- 4日 『飯田市歴史研究所年報8』発行
- 13日 「飯田・上飯田の歴史」(仮題) 刊行計画(案)パブリックコメント開始
- 17日 「飯田・上飯田の歴史」(仮題) 刊行計画(案)説明(丸山・橋南地区まちづくり委員会)
- 19日 trad 3 + iihr 共催円座「伝統都市の比較史」(飯田信用金庫本店)
(1日目) セッション1～3
- 20日 (2日目) セッション4～6
- 21日 「飯田・上飯田の歴史」(仮題) 刊行計画(案)説明(東野地区まちづくり委員会)
- 21日 第8回飯田市地域史研究集会「城下町飯田」(飯田信用金庫本店)
(1日目) 研究員会議・歴研賞授賞式
シンポジウム「伝統都市を比較するー飯田とシャルルヴィルー」
- 22日 (2日目) 小特集「飯田・上飯田ー近世から現代へー」研究報告
- 22～25日 阿智村建造物調査(伊藤毅顧問研究員・金澤研究員)
- 24日 近世史ゼミ「飯田萬年記4」
- 25～27日 横浜国立大学生研修(多和田雅保調査研究員)
- 27日 飯田科研(代表田嶋一) 追手町小学校・座光寺小学校史料調査

9月

- 8月30・1・3・6日 長姫高校建築科
- 8月31～3日 職場体験実習受入れ(飯田西中学2年生)
- 1日 思想史ゼミ「丸山真男『超国家主義の論理と心理』」
- 4日 飯田アカデミア第59講座「地域史と京都学」
ー三枝暁子さん(立命館大学文学部准教授) [りんご庁舎]
- 5日 下伊那関係史料収集作業(竹ノ内研究員) [長野県立歴史館]
- 5日 『下伊那のなかの満洲8』出版記念会
- 6日 「飯田・上飯田の歴史」(仮題) 刊行計画(案)説明(羽場地区まちづくり委員会)
- 6～9日 法政大学飯田ブレ研修
- 7～9日 職場体験実習受入れ(旭ヶ丘中学2年生)
- 7日 近世史ゼミ「飯田の椀商人」
- 9日 近現代史ゼミ「大正12年の南信新聞と胡桃澤日記」
- 9～11日 2010年日本建築学会大会(金澤研究員) [富山大学]
- 10日 「飯田・上飯田の歴史」(仮題) 刊行計画(案)説明(橋北地区まちづくり委員会)
- 11日 地域史講座「飯田・上飯田の歴史「大火の焼け跡で再投票」一本島和人調査研究員 [りんご庁舎]
- 14～17日 清内路調査合宿(東大日本史学研究室)
- 14日 建築史ゼミ「移築」
- 14日 旧飯田藩医中川氏所蔵史料調査(竹ノ内研究員・本島調査研究員) [箕輪町]
- 15日 「飯田・上飯田の歴史」(仮題) 刊行計画(案)パブリックコメント終了
- 15日 思想史ゼミ「福田恆存『日本人の思想的態度』」
- 17～19日 「シンポジウム2010年、いま戦後引揚げを問う」出席(九州大学)
- 25・26日 シャルルヴィル・メジェール市学術交流協議
- 28日 近世史ゼミ「御用達の役割と農村部」
- 29日 目録作成・古文書読解に関するレクチャー
- 30日 定例研究会「民政に見る藩政と県政」ー池田勇太研究員

■継続調査 部奈一朗氏所蔵文書、松澤卓治氏所蔵文書、上松家所蔵文書、小林八十吉氏文書、原常吉氏所蔵文書、鎮西徹氏所蔵文書、伊豆木代田家史料、阿智村伍和木下家襖文書、下清内路小栗家襖文書、中原謹司氏史料、岡島旭家所蔵文書、今村八束氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、八幡町犬塚家文書、座光寺久男氏史料、岩戸久義氏所蔵文書、松田初美家史料、田中伍市氏関係史料、千代嶋岡和治氏所蔵文書

10月・11月の催事スケジュール

	10月	2010	11月
金	NL48発行	1	月
土		2	火 近世史ゼミ
日		3	水
月		4	木
火	近世史ゼミ	5	金
水	思想史ゼミ	6	土 地域史講座
木		7	日
金		8	月
土		9	火 建築史ゼミ
日		10	水
月		11	木 アーカイブズカレッジ 近現代史ゼミ
火	建築史ゼミ 関西大学生研修	12	金
水		13	土
木	近現代史ゼミ	14	日
金	▼ 旧南信濃村調査合宿	15	月
土		16	火 近世史ゼミ
日	▼	17	水 思想史ゼミ
月		18	木 松川高校生就業体験
火	近世史ゼミ	19	金
水	思想史ゼミ	20	土
木		21	日
金		22	月
土		23	火
日		24	水
月		25	木 近現代史ゼミ
火		26	金
水	職場体験(竜峡中)	27	土 定例研究会
木	近現代史ゼミ	28	日
金	▼ 定例研究会	29	月
土	アカデミア第60講座	30	火
日	アカデミア第60講座	31	

開所日 休所日

開所時間 午前9時～午後5時

休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日